

港区史編さんだより

～ 区民の皆さんと歩み、歴史を語り継ぐ～

発行：港区総務部総務課区史編さん担当

〒105-8511 港区芝公園 1-5-25 / TEL 03-3578-2049 / <http://www.city.minato.tokyo.jp/>



区民インタビューを実施しました。

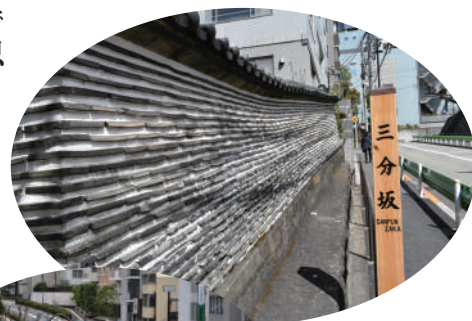
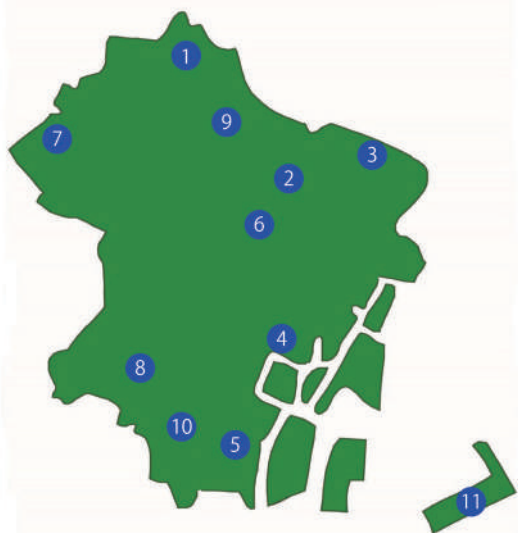
平成31年（2019年）4月から令和元年6月にかけて、11名の区民の皆さまにインタビューを行い、港区での思い出、現在・未来の港区への思いを語っていただきました。

区とともに人生を歩んできた人々が
見た、映像にも写真にも残されていない
貴重な「記憶の風景」に迫ります。

★インタビュー実施場所

（番号は実施日順）

- ①赤坂地区〈赤坂〉
- ②芝地区〈虎ノ門〉
- ③芝地区〈新橋〉
- ④芝浦港南地区〈芝浦〉
- ⑤芝浦港南地区〈港南〉
- ⑥麻布地区〈東麻布〉
- ⑦赤坂地区〈青山〉
- ⑧高輪地区〈白金台〉
- ⑨麻布地区〈六本木〉
- ⑩高輪地区〈高輪〉
- ⑪芝浦港南地区〈台場〉



トップページに大型バナーを設置



11名のインタビューをもとに港区全体の記憶の風景に浮かび上がらせる長編ドキュメンタリー映画

11名のお名前、肩書き、動画の印象的なシーンのキャプチャ画像、簡単な映像紹介等を掲載。キャプチャ画像をクリックすると、それぞれの詳細ページへジャンプ

QRコード



「デジタル版 港区のあゆみ」 URL : <https://trc-adeac.trc.co.jp/Html/Usr/1310305100/index.html>

▶ 2019年11月公開時の完成イメージです。デザイン・写真の配置などは変更になる場合がございます。

Close Up 区民インタビュー

① 赤坂地区<赤坂> 塚本悦吉さん (インタビュー実施日:平成31年4月4日)



赤坂青山町会連合会 相談役

昭和20年(1945年)、東京大空襲。赤坂の町を夜中じゅう逃げまどった中学生の塚本さん。あくる朝見たのは、遠く新橋駅まで続く焼け野原でした。昭和11年(1936年)の二・二六事件のご記憶、昭和20年5月の空襲、戦後の苦しい生活と復興、オリンピックと青山通りのことなど、たくさんの思い出をうかがいました。



【撮影コース】

青山通り⇒高橋是清翁記念公園
⇒国際医療福祉大学東京赤坂
キャンパス(赤坂小学校跡地)
⇒一ツ木通り

◀写真右 いつまでも賑やかな一ツ木通

② 芝地区<虎ノ門> 曲谷健一さん (インタビュー実施日:平成31年4月22日)

曲谷さんは、昭和20年(1945年)、8月15日になっても終戦を知らず、9月を迎えても広島に駐屯地で、軍事演習に明け暮れていました。戦後のモータリゼーション時代の中で車の部品販売卸事業を拡大された曲谷さんは、長屋が並ぶ戦前の桜田通りから高層ビルが林立する今日まで、虎ノ門を、見守り続けています。町は今、新たな大開発を迎え、曲谷さん自身も再開発のとりまとめを担い、消えた町名を残す西久保八幡神社に一番愛着があると100年後、1000年後に思いをはせたお話を頂きました。



愛宕四之部連合町会 会長

【撮影コース】

桜田通り⇒西久保八幡神社界限

写真左 桜田通りを背景に▶



③ 芝地区<新橋> 丸哲夫さん (インタビュー実施日:平成31年4月24日)



愛宕一之部連合町会 会長

昭和45年(1970年)11月24日、新橋駅前の鳥料理の老舗「末げん」。店主・丸さんは、その日訪れた作家の三島由紀夫が、翌日市ヶ谷で最期を遂げるとは思ってもありませんでした。「末げん」は明治42年、祖父源一郎さんの創業以来、戦災をのりこえ今日まで新橋をみつめてきました。戦時下の物資が乏しい中の経営、終戦直後の闇市の騒乱、戦後復興、華やかな花柳界、そして今日の繁栄。丸さんの記憶に町の変遷が重なります。



【撮影コース】

烏森神社⇒新橋駅前界限

◀写真左 「末げん」前

④ 芝浦港南地区<芝浦> 中島恭男さん (インタビュー実施日:令和元年5月13日)

今はもう想像が付きませんが、JR田町駅からほんの数分のところにある区立本芝公園周辺は、かつて海岸でした。江戸時代の頃は雑魚場と呼ばれた魚市場があり、江戸屈指の漁港でした。明治時代以降、この場所には鉄道がとおり、次第に埋め立てられて今日まで続く光景が、芝浦の地で交錯した瞬間に立ち会った貴重な証言の数々から蘇ります。



芝浦一丁目町会 常任顧問

【撮影コース】

本芝公園芝雑魚場跡⇒重箱堀⇒芝浦にあった海水浴場跡⇒(仮称)芝浦第二小学校(予定地)⇒旧協働会館



写真右 遠景のビル群と港の名残から▶

⑤ 芝浦港南地区<港南> 大島研二さん (インタビュー実施日:令和元年5月14日)



港南町会 会長

今は昔、品川駅の港南口は木造の小さな駅舎があり、ホームにたどり着くためには、駅舎をくぐり、地下通路を抜けていく必要がありました。この通路は、雨が降ると水浸しになり、人々は履物を脱ぎ、裸足で通路を抜けてからホームにあがり、靴を履きなおし、電車に乗った時代がありました。いまや人口が急増し、日々成長し続けている港南地区の思い出話をうかがいました。



【撮影コース】

品川駅港南口⇒御橋橋⇒芝浦中央公園
⇒港南中学校校界隈

◀写真右 タワーマンションを背に

⑥ 麻布地区<東麻布> 金本兼次郎さん (インタビュー実施日:令和元年5月20日)

うなぎ屋の老舗・野田岩の店主金本さんが、昭和20年(1945年)のまだ少年だった頃に東京大空襲がありました。空襲警報が鳴り、自宅前に掘った防空壕に避難をしました。爆撃の音が止み、自宅に戻ると、2階は屋根を焼夷弾が突き抜けていました。今も現役でお店に立ち、パリの支店にも足を伸ばす、生涯職人の金本さんの人生は、戦前、敗戦、戦後復興、高度成長という激動の時代と重なります。貴重なお話の数々をうかがいました。



飯倉三・四丁目町会 会長

【撮影コース】

桜田通り⇒飯倉交差点⇒東麻布界隈

写真左 野田岩店頭にて ▶
写真右 飯倉の思い出を話す ▶

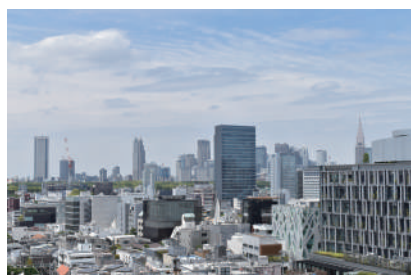


7 赤坂地区<青山> 川島信録さん (インタビュー実施日:令和元年5月22日)



赤坂青山町会連合会 顧問

昭和20年(1945年)8月15日、終戦を迎えた青山は表参道のほうも少しずつ人々が戻り、町の人たちは瓦礫の整理、空き地などを使って蕎麦や野菜の栽培をはじめました。川島さんの戦後は、町の復興のために捧げられて、町は文字通りの焼け跡から、時代の流れに乗り、世界中からおしゃれを求めるひとで賑わう街となりました。青山通り沿いに面した川島さんの酒店はその名残をとどめ、今も静かにこの町にたたずんでいます。



【撮影コース】

青山通り界限

◀写真右 青山通り

8 高輪地区<白金台> 金子芳夫さん (インタビュー実施日:令和元年5月24日)

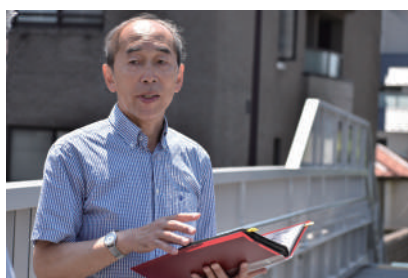
昭和42年(1967年)12月9日、廃止が決定した都電の最終電車の中に金子さんはいました。区内の人々の交通を支えた都電の活躍と廃止、目黒通りの拡幅、バブル期の発展と変化。白金台の歩みが、金子さんのご記憶と、今も日吉坂上の歩道橋、白金志田町歩道橋の定点写真をはじめとする、所蔵されている数々の貴重な写真、記念の品々を通じて鮮やかに蘇ります。



白金地区防災協議会 会長、「高輪今昔物語」リーダー

【撮影コース】

目黒通り⇒郷土歴史館
⇒瑞聖寺⇒三田用水跡
⇒桑原坂⇒白金小学校



写真右 郷土歴史館の由来を話す▶



9 麻布地区 < 六本木 > 谷口光一さん (インタビュー実施日：令和元年5月28日)



六本木町会 前会長、麻布町会・自治会連合会 前副会長

東京ミッドタウンに隣接し、緑豊かな憩いの場である区立檜町公園の敷地は、かつて陸軍の駐屯地でした。少年の谷口さんは、囲いを越え「兵隊さん」を屏越しに眺めたそうです。戦後、学童疎開から戻ると家は焼け、一時は防空壕から学校に通いました。歩いた町は、今は、多くの人で賑わう繁華街・六本木となりました。革製品の事業が成功を収め、町会活動も積極的な谷口さんにミシンで職人の腕を披露していただき、六本木の思い出を伺いました。



【撮影コース】

東京ミッドタウン⇒檜町公園⇒三河台公園⇒六本木交差点界限

◀写真左 六本木交差点から

10 高輪地区 < 高輪 > 片桐義雄さん (インタビュー実施日：令和元年6月3日)

昔ながらの名残を留める町、高輪。武蔵野台地が東京湾に臨む古来の地形を今にとどめる高台から、レインボーブリッジ、建設中の新駅を眺めつつ、今まさに迎えつつある高輪の町の変化の兆しを見やり、片桐さんはこれからの30年に思いをはせます。変わるもの、変わらないもの、豊かな自然の3つの要素を残した、新しいまちづくりへの期待を語っていただきました。



高輪共和国 前会長

【撮影コース】

東禅寺⇒高輪公園⇒プリンスホテル付近⇒第一京浜、品川駅高輪口界限



写真左 高輪公園の巨木の麓を歩いて撮影▶

写真右 巨大な歩道橋から品川駅を臨む▶

11 芝浦港南地区 < 台場 > 安田功さん (インタビュー実施日: 令和元年 6 月 24 日)



お台場合同自治会 会長

港区で最も新しい町・台場は、人間ならまだ 23 歳。この町は、文字通りゼロからのまちづくりでした。

新しく区民となり子育てをして、この地で暮らし通勤してきた安田さん。出勤の早朝の景色と勤務を終え、帰路につく中で見える夜景が安田さんの台場でした。数十年を経て今、台場を「心の中のふるさとづくり」として奮闘する安田さんの記憶をたどりました。



【撮影コース】

芝浦港南地区総合支所台場分室会議室
⇒お台場海浜公園⇒お台場の夜景

◀写真右 港区のビル群と屋形船をみる

区民インタビューを終えて

このたび、港区内の生き字引でいらっしゃる方々の人生と町の移り変わりを、お育ちになった町をご案内いただきながら、長時間にわたりインタビューさせていただきました。大変お忙しいなか、皆様が快くご対応いただきましたことを深く感謝申し上げます。

港区 70 年の歴史は、町の多くが焼け野原になった第二次世界大戦から、戦後復興、高度経済成長、バブル経済、そして少子高齢化社会の到来という日本の歴史とも重なる歩みです。お話をいただきました方々をはじめ、戦中・戦後の苦しい時代から復興や発展に力を尽くされた方々がいて、今日の港区の繁栄があるのだと実感しました。今回のインタビュー内容は「デジタル版 港区のあゆみ」のなかでも随時公開してまいります。今しばらくお待ちください。

最後に、あらためまして、インタビューさせていただいた 11 名の方々、その他ご協力いただいた多くの皆様にご場をお借りして厚く御礼申し上げます。どうもありがとうございました。



◀ 白金台を走る都電

金子芳夫様撮影『わが街港区芝白金台町』より。お店から見た白金台町の歴史の一部が切り取られています。

芝浦の今むかし ▶

中島恭男様よりご提供の「芝浦の歴史」と町会だよりには、芝浦の今昔物語が綴られていました。



◀ 品川駅の思い出

片桐義雄様ご借用写真。変化する昔と今の品川駅辺りです。完成したばかりの東京タワーと品川駅、リヤカーで移動していた頃の写真が印象的です。